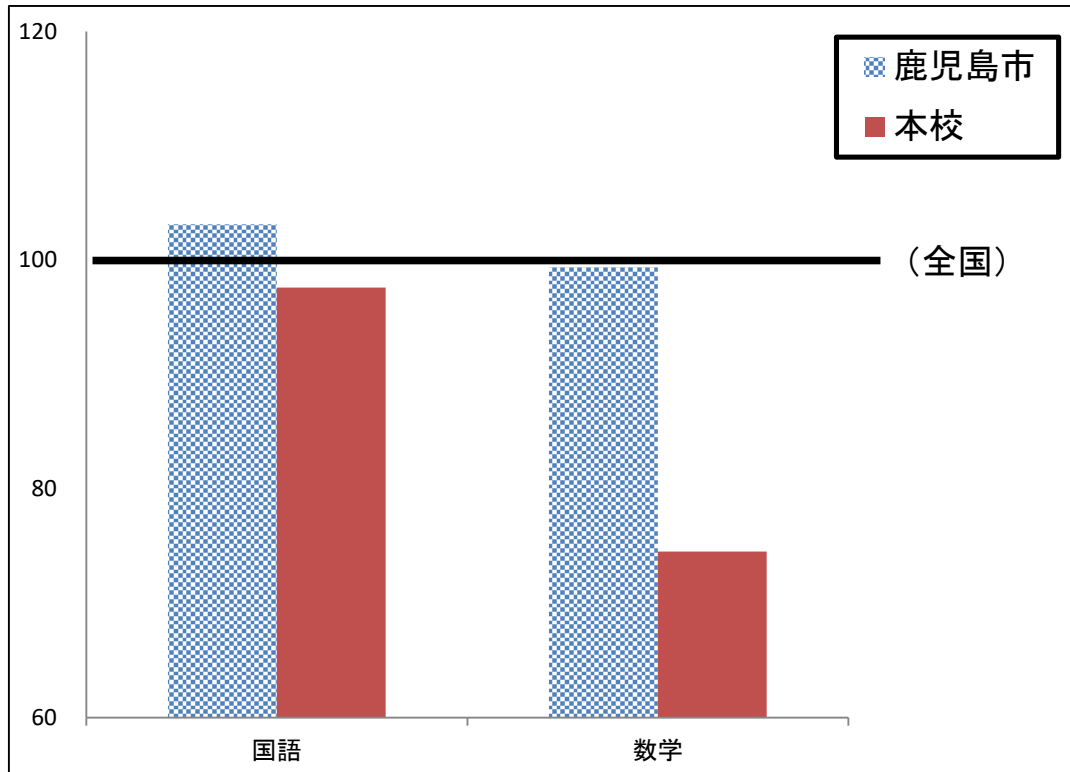


令和7年度全国学力・学習状況調査結果について

甲東中学校

1 自校・市・全国の平均正答率の比較

〈 全国平均正答率を100とする棒グラフ 〉



2 自校の課題に対する改善策

〈国語〉

平均正答率は全国、鹿児島市より若干低い正答率になりました。「知識・技能」の漢字の書き取り(21.3%)「書くこと」における自分の考えを根拠をもとにして書く正答率(9.8%)無答率(32.8%)と言語事項と「思考・判断・表現」における記述に課題があります。今後の授業では、具体的に日常的な小テストや漢字活用の場面設定、多様な書く活動の充実、根拠を明確にする指導の工夫、段階的な表現活動、ICTを活用した意見交流等を通して、基礎的な言語力と主体的な表現力の向上を図ります。

〈数学〉

平均正答率は全国平均を下回り、特に「思考・判断・表現」領域(23.5%)と記述式問題(24.3%)に課題が見られます。基礎知識は一定の理解がありますが、応用力や表現力を高めることが課題です。今後は、記述力向上を目指し、①ペアで解法を説明し合う活動、②模範解答の比較・評価、③穴埋め→選択→自由記述の段階的な学習を取り入れていきたいと思ひます。また、授業中に「なぜそうなるか」を問う場面を増やし、根拠を言語化することで、論理的思考力と表現力の向上に繋げたいと思ひます。

〈理科〉

「粒子」領域に関する問題で全国平均に近い正答率を示す一方、「生命」領域では全国平均を大きく下回る傾向が見られました。特に「呼吸を行う生物の選択」や「共通する構造の判断」など、生物の構造と機能に関する理解が不十分でした。また、記述問題が課題となっており、記述力や論理的思考の育成が必要だと考えられます。観察や実験を通して、生物の構造と働きを体感させ、結果について根拠をもとに考察・記述する活動を繰り返すことことで、理解と表現力を育ていきたいと思ひます。

〈全体的に〉

特に低い項目

- ・ 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
- ・ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがどれくらいありますか。
- ・ 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、